

# 矢作川流域圏懇談会「第2回山部会WG」開催報告

## 1. 実施概要

### (1)実施概要

○実施日時：平成24年5月19日(土)  
10:00～16:30

○開催場所：

【集合】岡崎市森の総合駅

【訪問箇所】野生獣解体施設、優良施業林業地

【WG会場】千万町茅葺屋敷

○参加者：19名（事務局含む）

### (2)内容

#### 【プログラム】

1. 岡崎市の環境施策
2. 現地見学
  - (1)野生獣解体施設
  - (2)優良施業林業地
3. 山部会WG
  - (1)旧宮崎村の山づくりのあゆみ
  - (2)岡崎市森林整備ビジョン
  - (3)意見交換



会議風景（1）



会議風景（2）

## 2. 主な会議内容

第2回地域部会WGでは、岡崎市の森づくりに関わる現状について、取り組み事例の紹介や現地見学をした上で、山村再生や今後の森づくりに関する意見交換を行った。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 山の担い手をどのように確保していくかということを中心に話し合いが行われた。その中では、山に愛着を持ってもらうこと、そのためには山の作業が小遣いになること、人との付き合いが大切であることなどが条件として挙げられた。
- 次回の第3回WGは、6月16日に恵那市で、第4回WGは、7月7日に豊田市で開催することを確認した。
- WGでは、まず一巡目は、現地見学などを通じて、それぞれの地域の実情や取り組みの把握を行い、2巡目から、「山村再生担い手づくり事例集」及び「森づくり・木づかいガイドライン」の具体的な検討を進めていくことを確認した。

### 3. 岡崎市の環境施策について

岡崎市の水環境創造プランの概要について、岡崎市環境保全課蜂須賀氏よりご説明して頂いた。

- 平成 18 年の額田町との合併を契機として、水や緑についても大切にしていくため、「水環境創造プラン」を策定した。
- 水については、乙川流域がすべて市域になったことから、水の地産地消に力を入れていくことになった。
- 緑については、森の駅を軸として人と自然の触れ合いやまちと山が交流することで活性化を行っていくものとした。



説明風景

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ このプランは具体的に何を目玉にしているのか。（丹羽）
  - ▶ プランの柱は、「水量」「水質」「災害」「水辺環境」「水との関わり」の 5 つであるが、そのうち、「水量」と「水との関わり」に重点を置いている。水量では、雨水貯留浸透施設の整備、水との関わりでは、水辺マップの作成や森の駅の活用など、人と関わるものを応援していきたい。（蜂須賀）
- ・ 山部会では、人と地域の問題として、山村再生の担い手づくりを考えているが、この対応は、環境保全課が窓口なのか。（蔵治）
  - ▶ 森林整備ビジョンの中で掲げており、林務課が担当になる。（蜂須賀）
- ・ 岡崎市の市民活動団体について、どんな団体があるのか、どこかに整理したものはないか。（蔵治）
  - ▶ 市の市民協働推進課がパンフレットを作成している。（沖）
- ・ 川は川、森は森ではなく、水のことから森のことを考え、横のつながりを持たせているところが画期的だと思う。連携にあたっての苦労はあるか。（蔵治）
  - ▶ 横の連携には苦労している。また、連携するために、現在は、水循環プロジェクトチームを立ち上げ、関係各課の若手から意見をもらいながら、計画の見直しを行っている。（蜂須賀）

### 4. 現地見学会概要

#### （1）野生獣解体施設

野生獣解体施設について、NPO 法人中部猟踊会日浅氏よりご説明して頂いた。

- 近年、野生鳥獣が増加している一方、猟友会の高齢化、後継者不足を危惧したことから、農家や猟師が集まり、鳥獣捕獲を目的とした NPO を設立した。
- 当初は、鳥獣捕獲にあたって、農家からは、全くいなくなることを、猟師からは、たくさんいた方がよいということで板ばさみになったが、現在では、適正に管理・調整することに対する理解を得られるようになった(例えば、子どもは逃がすなど)。



説明風景

- また、今までは、捕獲した野生鳥獣は、そのまま捨てられたり、焼却されていたが、地域資源として有効に活用するために、解体処理施設を整備し、肉の保管庫（冷凍庫）を整備中。これらの施設は、すべて自前（ボランティア）でつくっており、有効活用してもらえばいい。
- 天然のイノシシの肉は、臭みがなく、寄生虫も少ない。特に、このイノシシは、イノシシで有名な丹羽篠山のものに比べても味に遜色がないと思う。現在では、有効活用として、ホームレスへの食料や地域のイベントで使われているが、余り気味である。

【意見交換】（・ ご意見、提案 ▶ 回答）

- ・ どこに行けば、天然のイノシシを食べられるのか。（蔵治）
  - ▶ この場所でも食べることも可能。凝った料理より、薄切りにして、オリーブと塩をかけて食べるのが一番おいしい。（日浅）
  - ▶ 解体処理にあたっては、肉の仲買人ではないので、必要経費だけいただけるといい。（日浅）
- ・ 解体はこの場所で行うのか。（丹羽）
  - ▶ 現場で捕獲したらその場ですぐにと殺する。この施設では、内臓を取り出し、肉の解体を行っている。（日浅）
- ・ お荷物を宝に変えるしくみとして、農家を巻き込んでできた秘訣は何か。（丹羽）
  - ▶ 猟友会が衰退したことが大きな要因だと思う。また、野生資源をお金に変えるという意識は特にない。あくまで野生鳥獣の適正管理と有効活用をしたいと考えている。肉を使った商品開発などは自由にしてもらえればいいと思う。（日浅）
- ・ NPOにはどれくらいの人がいるのか。（洲崎）
  - ▶ 現在18名程度。入りたいという人も多くいるが、雑務が多くなるのであまり増やさないようにしている。また、行政から認可をもらう関係でNPO法人を取得した。（日浅）

## （2）優良施業林業地

岡崎市森林組合の取り組みについて、岡崎市森林組合池田氏よりご説明して頂いた。

- 山の間伐については、これまでは、営業活動を行わず、山主からの依頼を受けて実施していた。2年前くらいから提案型集約施業ということで、山主の方に営業を行い、見積をつくった上で間伐作業を行っている。
- 組合には地元出身の若者がおらず、多くはIターン者である。
- 今年の冬に行った現場は、概ね20町歩。



優良施業林業地

【意見交換】（・ ご意見、提案 ▶ 回答）

- ・ 提案にあたって、「あいち森と緑づくり税」は活用しているのか。（蔵治）
  - ▶ 可能なものについては、活用している。（池田）
- ・ 使用している機械はどんなものか。（蔵治）
  - ▶ タワーヤーダ、プロセッサ、フォワーダを各4台使用している。（池田）

- ・ 年間の搬出量はどれくらいか。(丹羽)
  - 5人/組で概ね3500m<sup>3</sup>。できるだけ、山に残材が残らないようにしている。(池田)
- ・ 最近では、市内の高い木の伐採も多いが、大径木を切れる人が1しかいない。また、20～30代の人に技術を教えてくれる人がいないことも課題である。(池田)
  - 広域森林組合に1人でも指導者がいるといい。(丹羽)



林業機械（スイングヤーダ）

#### 4. 山部会WG概要

##### (1) 旧宮崎村の山づくりのあゆみ

旧宮崎村の山づくりのあゆみをDVD「山に生きる」を参加者で鑑賞した。

- 昭和30年の旧宮崎村村民が全員で山の作業を手伝っていた時代の映像紹介

##### (2) 岡崎市森林整備ビジョン

岡崎市森林整備ビジョンについて、岡崎市林務課権田氏よりご説明して頂いた。

- 平成18年の合併により、市域の60%が森林を占めることになったことから、市民と行政の協働に森づくりの指針として、平成22年に森林整備ビジョンを作成した。
- ビジョンでは、100年後に人工林40%、天然林50%、里山林10%にすることを目標に、当面は、450ha/年の間伐を行っていくものとしている。実績としては、H22年度が524ha/年、H23年度が422ha/年となっている。
- 作業道を整備しないと木材の搬出ができないことを路網整備に力を入れ、現状22m/haを44m/haにしたいと考えている。



説明風景

##### (3) 意見交換（ご意見、提案 ➤ 回答）

- ・ 450ha/年の間伐は実際に可能なのか。(丹羽)
  - これまでの実績から概ねできると思う。(権田)
- ・ 森林組合で対応できる分はどれくらいか。(丹羽)
  - 搬出を伴わないものや業者へ委託する分も含め120ha/年くらい。(池田)
- ・ 残りは誰が行っているのか。(丹羽)
  - 残りには、個人の分や農業公社、国の分も含まれている。(権田)
- ・ 今後の展開として、組合に頼るのか、業者を増やすのか、自分でできる人を増やすのか、その方向性が見えない。(丹羽)
  - 組合は、あくまで組合員を優先して行うので、組合が450haすべて行っていくことにはならない。(池田)

- ・ 個人自らで行っている分はどれくらいあるのか。(蔵治)
  - 組合では、120haのうち、概ね1割が個人であるが、年々減少している。もともとプロであった人たちも高齢化により、組合に頼っている状況である。(池田)
- ・ 国では、大型機械を使いつつ、プロに委託する方向になっている。ただし、ここでは、市街地からも近く、人はたくさんいるので、自伐林家を増やすことも可能ではないか。(丹羽)
  - 若い人は忙しく、自分も50歳過ぎから自分でやり始めた。このような人を今後、取り込んでいきたいと思う。(権田)
  - これまで間伐支援隊（もともとは素人の人）との付き合いがあるが、プロにお願いするより、支援隊にお願いしたいという人もいる。このようにもともと林業に関わっていない人を取り込んでもいいと思う。また、地区内をまわってPRをすれば担い手もでてくるのではないか。(池田)
- ・ 山に関心を持ってもらうにはどうすればいいか。(丹羽)
  - 木の駅プロジェクトのように、自分がすることによって日当がでるようなしくみができればいいと思う。(池田)
- ・ 高齢者を活用することはどうか。(丹羽)
  - 60歳過ぎの人には根羽の山は無理。里山ならいいが、奥山の間伐となると危険が伴い、素人では難しい。(南木)
- ・ プロが行わないと山がよくなるということか。(丹羽)
  - 概ね半分が切り捨て間伐であり、切り捨て間伐ではお金にならない。補助金でまかなうにはよほど多く切らないとお金にならない。(南木)
- ・ プロでも素人のどちらでもダメということか。(丹羽)
  - 山を持っている人は山を何とかしたいと思っている。それぞれ自分の持っている山だけを間伐していくことはそれほど難しいことではないのでは。大型機械で行うより、こちらの方がいいと思う。(黒田)
- ・ 矢森協の森林ボランティア宣言では、素人山主に対して、1年のうち1週間だけでも山に入ればいいのではないかと謳っている。山主が山に向かなければダメであり、山主にその気になってもらうしくみが現状では弱いと思う。
  - 山主がそこまで関心がないのかと疑問に思うこともある。(池田)
- ・ 森林整備ビジョンでは、100年後には、業としての林業を減らそうということで、100年後の人工林の比率を減らしているということか。業としてはできないことが分かっているのでそうなのでは。(蜂須賀)
  - 森林組合においても、これまでは製材と森林整備を行ってきたが、製材は業として成り立たなくなっているため、今後は、森林整備を行っていく考えである。(池田)
- ・ 森林整備ビジョンでは、業のことが書いてあるが、なかなか現実では難しい。(蜂須賀)
  - 森林整備では、あいち森と緑づくり基金（税）を活用しながら事業を行っていくことを考えている。(権田)
- ・ 森林組合でも補助金がなければ森林整備が赤字になってしまう。(池田)
- ・ 森と緑づくり税を導入したのは、三河の山を守りたいからだと聞いている。(沖)
- ・ 当初、森と緑づくり税を導入する際には、愛知県は、この制度は呼び水であり、呼び水を

まけば動き出すと説明していた。現状を見ると山は財産ではなくお荷物であり、山を知らない人がその土地の権限をもっていることが課題。それらの山主に関心を持たせるには、補助金の他には何も無いのか。(蔵治)

- ▶ これまでの議論は、山をどうしよう、木を切って売れなかったら捨ててしまおうといった話であり、山を愛するとか、大切にしようという議論になっていない。山に行くのは子育てと一緒に気になるから山にいつてみようという風に考えたい。(黒田)
- 小遣いになるが愛着の第一歩ではないか。そうゆうしくみをつくることがポイントではないか。(丹羽)
- 山部会では、木づかいについても議論していくが、森林整備ビジョンの中にはそのような施策はあるのか。(蔵治)
  - ▶ 公共施設に地元材を使っていこうという施策はあるが実際はこれからというところ。(権田)
- 根羽村のように、岡崎の家づくりといったものは無いのか。(丹羽)
  - ▶ スギやヒノキのログハウスづくりは推進している。(権田)
- 森林組合はどのように考えているか。(丹羽)
  - ▶ 平成6年ごろは製材の方が良かったが、ここ10年くらいでパタッと無くなってしまった。現状は、森林整備の方がよい。製材は大量生産するところが安く供給できるし、業者も減ってきたため、経済的にはかなり厳しい。ただし、根羽村のように最後まで面倒を見ることを行っていきたくので、製材業者への紹介などサポートについては考えていきたい。(池田)
- 山の担い手として地域に定着するために必要なことは何か。(丹羽)
  - ▶ 特に考えておらず、ただ山の仕事をしたかった。根羽に来てから感じたのは付き合いが過密になったこと。そのため、人間関係がうまくできればいいと思う。(南木)
  - ▶ 人との付き合いが大事だと思う。地域の人との関わりがなじめればずっといたい。根羽の人たちはいい人ばかりで暖かく迎えてくれた。(鈴木)
  - ▶ 人付き合いは必要だと思う。若い女の子がくると地域の中で話題となり、地域の人の方がよく知っていることもあるくらい。また、これまでは、すべての人を受け入れてきたが、辞めてしまう人も多く、今は人を見るようになった。だいたい辞める人と残る人は、50対50くらいである。(池田)
- 今回の山部会WGの話をすると、これまで市民有志、地域部会で検討してきた内容として、人と地域の問題では、山村再生担い手づくり事例集として、地域づくりの中でどんなことが自発的にできるかを調べていきたい。また、森の問題として、森づくり、木づかいガイドラインとして、市や県でバラバラにつくられているものを矢作川流域圏として、緩やかなつながりとしてこんな考え方が必要というものをつくっていきたい。(蔵治)
- また、地域部会で提示したA3資料については、いくつか修正したので、内容を確認してほしい。(蔵治)
- 今後の進め方として、まず一巡目は、現地見学などを通じて、それぞれの地域の実情や取り組みの把握を行い、2巡目から、「山村再生担い手づくり事例集」及び「森づくり・木づかいガイドライン」の具体的な検討を進めていけばいいと考えている。そのため、こんな

活動を行っているとかの情報があれば出してほしい。(洲崎)

- ・ 次回の第3回WGは、6月16日に恵那市で、第4回WGは、7月7日に豊田市で開催することを予定する。

以上